

平成26年度入学試験問題（推薦入試Ⅱ）

小論文

法文学部 人間科学科

注意事項

1. 受験番号を解答用紙の所定の欄に記入すること。
2. 解答は、必ず解答用紙に記入すること。
3. 解答用紙の他に、下書き用紙を配付するので、取り違えないよう注意すること。
4. 解答時間は、120分である。
5. 横書き、鉛筆（シャープペンシルを含む）書きにすること。

問題

下の図は日本人の生活目標についての意識調査の結果である。この図が示していることを説明した上で、それをふまえて、あなたが望ましいと考える社会づくりを行うためにはどのようなことが必要とされるか、あなたの考えを1,000字以上、1,200字以内で述べなさい。

非公開

図 日本人の生活目標

凡例：

- 図中の数値は質問文「あなたの生活目標にいちばん近いのはどれですか」に対してそれぞれの選択肢が選ばれたパーセンテージを表す。
- 4つの生活目標志向に対応する選択肢は次の通り。
 - 《快志向》＝その日その日を、自由に楽しく過ごす
 - 《利志向》＝しっかりと計画をたてて、豊かな生活を築く
 - 《愛志向》＝身近な人たちと、なごやかな毎日を送る
 - 《正志向》＝みんなと力を合わせて、世の中をよくする

データ：「日本人の意識調査」(NHK放送文化研究所)第1回(1973年)～第8回(2008年)、調査対象は全国16歳以上国民。

出所：『現代日本人の意識構造[第七版]』(NHK放送文化研究所編、日本放送出版協会発行、2010年)より作成。

平成26年度入学試験問題（推薦入試Ⅱ）

小論文

法文学部 人間科学科

出題の意図

人間科学科では、人間は何のために生き、どのような社会を、どのように築き、そしてどこに向かおうとしていくのか、その根源的な問いを考えていくことを目標としている。人間科学科の各専攻課程が「求める人材像（アドミッションポリシー）」で明らかにしている諸能力の内、特に、理解力、考察力、論理的思考力、記述力等を総合的に小論文によって判断する。

この資料は、日本人の生活目標志向の経年変化を示した調査結果である。この資料の読解力に加えて、望ましいと考える社会づくりについて独創的・論理的に論じる能力が求められる。